

自然豊かな地域の教育資源を活用したふるさと教育の充実

南富良野町立南富良野中学校 学級数6 (校長 三浦 宏幸)

実践の概要

南富良野町は豊かな自然に恵まれた地域であり、その自然を生かしたアウトドア活動が観光客に人気である。本校では、総合的な学習の時間において、本町の自然を生かした観光産業の意義や魅力を知り、ふるさとへの愛着と誇りを育むため、様々な体験学習や探究的な学習によるふるさと教育の充実を図っている。

1 実践の目的

体験学習や観光産業を支える人々からの学びを通して自然を生かした観光産業の意義や魅力を知り、探究的な学習を通して問題解決能力を育むとともに、ふるさとへの愛着と誇りや地域の一員である意識を高め、自己の生き方を考える。

2 実践内容

(1) 実施計画

地域の観光業者の指導によるアウトドア体験学習

(6月～7月カヌー、ラフティング、登山、1月～2月スキー、カーリング)

地域の観光業者による講演(10月)

縦割り班による探究的な学習及び全体交流会(11月)

(2) 取組の具体

地域の観光業者の指導によるアウトドア体験学習

地域の観光業者の指導の下、夏はカヌー、ラフティング、登山、冬はスキー、カーリングの体験学習を通して、自然の豊かさを生かしたアウトドア活動の魅力について考えることができるようにした。

地域の観光業者による講演

地域人材を活用し、地域の観光業者であるNPO法人どんころ野外学校による講演を通して、地域における観光産業の役割や重要性、地域のよさについて考えることができるようにした。

縦割り班による探究的な学習及び全校交流会

全校生徒で縦割り班をつくり、体験学習や講演、各自で調べた情報を基に、各班で整理・分析し、「南富良野町のおすすめ」を紹介する資料を作成するとともに、全校交流会を実施した。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

事前アンケートを基に、生徒の実態や課題に応じた取組となるよう、総合的な学習の時間の内容を工夫するなど、教育課程の見直しを図った。

地域の観光業者の協力の下、様々な体験学習や講演を実施することにより、生徒は多様な視点で町の魅力やよさを認識することができた。

また、探究的な学習や全校交流会を通して、多くの生徒がふるさとへの愛着や誇りをもつとともに、地域のよさを更に引き出す方法や地域の魅力を発信していく必要があると感じるなど、新たな課題を見出し、次への学びに生かそうとする様子が見られた。

(4) 改善後の取組

生徒が自らの課題を探究していく過程で、体験学習や講演等の他に、地域の観光産業に携わっている様々な立場の方にインタビューをするなど、情報収集を工夫したり、成果を発表する際にICTを活用し、遠隔で他地域の生徒に南富良野の魅力発信するなど、まとめ・発表を工夫したりするなど、ふるさと教育の一層の充実を図った。

3 実践のポイント

地域の魅力や良さを肌で感じるとともに、ふるさとへの愛着や誇りを育むため、地域の教育資源を最大限に活用しながら体験学習や探究的な学習を充実させたこと



【カヌー体験学習】



【縦割り班による探究的な学習】



【全校交流会】

地域と連携した体験活動を通して生徒に郷土愛を育む取組

津別町立津別中学校 学級数 8 (校長 森本 邦紀)

実践の概要

本校では、中学生に郷土愛を育むことを目的とするオホーツク教育局独自プロジェクト「オホーツク『きゅん』として『GOOD』プロジェクト」と連携し、学校運営協議会の地域コーディネーターと協働した小・中・高12年間を見据えた「地域活動プログラム」を実施している。

1 実践の目的

「ふるさと津別町」のよさや魅力を実体験するとともに、地元の方々と交流する学習活動等を通して、「ふるさと津別町」へ想いを馳せる心を醸成する。

2 実践内容

(1) 実施計画

- 第1学年：雲海学習、森学習、木育、木の再利用、施設の再利用、福祉サポーター体験（6月から9月）
- 第2学年：農業体験、JA講座、食育、地元上空フライト体験、施設のバリアフリー検証（5月から11月）
- 第3学年：マナー講座、職場体験（5月から7月）

(2) 取組の具体

第1学年の「雲海学習」「森学習」では、生徒が津別峠や町内の山林で雲海や大木に触れる体験を行うとともに、地元NPO法人の講師から、津別の気候の魅力等についての解説を聞き、ふるさと津別の魅力を再発見した。

第2学年は、地元JA職員から津別町の農業の特色を学んだ後、地元農家の協力の下、ふるさと納税返礼品の農産物の収穫や納品作業などの農業体験を通して地域の基幹産業への理解を深め、地元への想いの醸成を図った。

第3学年は、認定講師によるマナー講座を受講後、町の各種事業所での職場体験を通して、地元で働くことの意義や地元で働く方のふるさとに対する想いを学んだ。



【森学習の様子】



【農業体験の様子】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

「オホーツク『きゅん』として『GOOD』プロジェクト」と連携し活動を見直した結果、生徒のふるさとへの想いをさらに醸成するために、「地元高校との連携を行う視点」及び「ふるさとのよさを他市町村に発信する視点」の必要性を感じた。



【職場体験の様子】

(4) 改善後の取組

津別高校と連携を図り、高校で実施している「つべつ学」の発表会に本校生徒が参加し、交流・協議をすることにより、ふるさとへの想いをより深めることができた。

町の姉妹都市交流事業と連携し、来町した小・中学生に対して、本校生徒が作成したふるさとの魅力をまとめた動画を紹介する機会を設定し、互いのまちの良さを交流することを通して、生徒が津別町の良さについて改めて認識を深めることができた。

3 実践のポイント

- ・地域コーディネーターが学校と地域の橋渡し役として機能することにより、学校教育を支援する方々との情報共有を円滑に進めるとともに、地元での体験活動や講師依頼等、取組内容の充実を図ること
- ・教育局の事業と連携して取り組むことにより、外部発信や高校との連携の視点を加え、学校内外の協力体制を強化すること

地域と連携した職場体験の取組

浦幌町立浦幌中学校 学級数5 (校長 石森 裕章)

実践の概要

本校は、学校、行政、NPO、企業・団体、町民など、地域が一体となって、それぞれの強みを生かした協働体制の下、地域と連携した職場体験の取組を通して、社会的、職業的自立に向けた取組を平成19年度から推進している。

1 実践の目的

生徒のキャリア形成及び地域への愛着を育むために、NPO法人うらほろスタイルサポートのコーディネーターが中心となって、町内の小中学校で行われる「ふるさと教育」「キャリア教育」を軸に、中学校第2学年において、町内の事業所等の職場体験を通して、働くことの意義や職に就くための心構えを学習する。

2 実践内容

(1) 実施計画

- キャリア形成を見通すための事前学習
- キャリア形成を促す職場体験
- キャリア形成を振り返るための職場体験発表会

(2) 取組の具体

キャリア形成を見通すための事前学習

職場体験の事前学習では、自分なりの目標をもって臨むことができるよう、希望職種の調査を行うなどし、自己の課題を発見することを目的としている。その際、うらほろスタイルサポートのコーディネーターが、事業者への職場体験の依頼、新規協力先の発掘等を学校に代わって行うため、事業所の受入れ調整の業務等の軽減が図られ、教師は生徒への事前指導の充実を図ることができた。

キャリア形成を促す職場体験

職場体験の実施に当たっては、日常の教育活動全体を通して身に付けた資質・能力を生徒が十分に発揮できるよう、担当教員が各事業所を巡回するとともに、うらほろスタイルサポートのコーディネーターを介して、生徒に身に付けさせたい資質・能力について、事業所と共有を図った。

キャリア形成を振り返るための職場体験発表会

職場体験の事後指導では、互いの体験を共有したり、働くことの意義について再考したりすることを目的とした職場体験発表会を実施し、仕事の紹介と自身が学んだことの交流を行った。また、協力いただいた事業者の方を招き、地域に根ざした教育活動の実現に向けた学校の取組について共有した。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

地域と連携した職場体験を実施することにより、生徒は、事後のアンケートにおいて、「働くことは大変だが、それ以上に働く喜びがあることが分かった」等の感想をもつことができた。また、生徒の資質・能力の育成の視点で実習を受け入れてもらうことで、地域全体で子どもを育てる風土が一層醸成された。

(4) 改善後の取組

自身の希望に沿った職場にならず、意欲的に取り組むことが難しい生徒がいたことから、今年度は、複数の生徒を受入可能な事業所を発掘し、生徒が希望する職種で体験することにより、生徒がその職業を深く学ぶとともに就業の喜びや苦労、その職に就くための方法などを学び、自己の将来をより深く考えさせることができ、生徒の意欲や態度について、各事業所からとても高い評価が得られた。

3 実践のポイント

- ・コーディネーターと連携した取組により、学習活動の趣旨についての町内の各事業所の理解を進め、一人一人の生徒のキャリア形成に応じた取組を推進したこと
- ・生徒の特性に応じた体験活動の提供したことにより、生徒のコミュニケーション能力を高めたこと

浦幌中学校「総合的な学習の時間」地域との連携による体験的な学び		学年の課題	コミュニケーションスキルアップ	地域との連携	育む力
1 2 3 学年	関 入 体 験 す る 企 画 す る	「職業への関心」 ・身近な人の職業調査 ・取材調査票作成 ・事前学習(マナー学習) ・取材活動 ・プレゼンテーション作成 ・発表とまとめ	コミュニケーション能力 ・電話・手紙・訪問マナー ・話し方のロールプレイ ・体験的な学び ・プレゼンテーション能力 ・全体プレゼンテーション ・発表・交流・相互評価	「職業調査」 ・地域事業所取材訪問	体験的！ 体系化！ 地域と連携！ ・自己理解 ・他者理解 ・コミュニケーション能力 ・表現力 ・創造力 ・自己有用感 ・自尊感情
		「職業観の育成」 「職場体験」 ・自己を知り、将来設計 ・働く目的、先輩から学ぶ ・事前学習(マナー学習) ・職場体験 ・プレゼンテーション作成 ・発表交流と評価活動 ・自己を見つめる	コミュニケーション能力 ・手紙・挨拶・接客マナー ・話し方のロールプレイ ・体験的な学び ・プレゼンテーション能力 ・全体プレゼンテーション ・発表・交流・相互評価	「職場体験」 ・教育委員会との連携 ・受入先事業所リスト作成 ・文字協議会 ・地域事業所職場体験 ・外部講師 ・インタビュースタッフ	
		「地域経済への参画」 「郷土探訪」 ・社会経済の仕組み ・地域の特色調査 ・起業・企画立案 ・商品開発、試作品開発 ・プレゼンテーション作成 ・プレゼンと評価活動 「上級学校観望」 ・自分の適性と進路設計 ・上級学校調査 ・受験アドバイス	コミュニケーション能力 ・伝達手段・方法の学習 ・プレゼンテーション能力 ・個人へのプレゼンテーション ・全体プレゼンテーション ・発表・交流・相互評価	「地域活性化プロジェクト」 ・十勝うらほろ観光との協力 ・地域職場と連携 プロジェクトの実践 ・外部人材活用 ・地域の方との交流会 ・町役場・地域産業関係者 ・地域活性化発表会 ・講師、保護者、地域住民	

【地域との連携にを明確にした系統表】



【保育体験の様子】



【飲食店体験の様子】

地域との協働によるふるさと学習

豊頃町立大津小学校 学級数3 (校長 小副川 浩)

実践の概要

本校では、サケの生態や産業、稚魚放流や地引き網漁等の体験活動、野生の鹿や自社で生産している家畜を調理・提供している飲食店職員による食育学習、地域団体職員による、観光資源を題材とした創作活動等、地域と協働したふるさと学習の取組を推進している。

1 実践の目的

サケの生態や産業、稚魚の放流、地引き網漁の体験活動や職場訪問、野生の鹿や自社で生産している家畜を調理・提供している飲食店職員等による講話・実習等を通して、ふるさとの産業について理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着の心を涵養する。

2 実践内容

(1) 実施計画

漁業についての体験活動を通し、地域の基幹産業への理解を深める。(漁業体験)

地域のレストラン経営者の講話による食育学習を通して、命の尊さを知る。(エレゾ社による出前授業)

地域の観光資源を題材とした体験活動を通し、地域への愛着や誇りを育む。(ジュエリーアイスキャンドル作り)

(2) 取組の具体

漁業体験

サケの稚魚・マツカワ放流体験学習、地引き網体験学習等を行い、地域の基幹産業である漁業についての見識を深めた。特に鮭の稚魚放流については、受精卵を学校で育てることを通して、地域の漁業が採ることに加え、育てることに力を入れていることを実感し、地域社会の一員としての意識を高めることができた。

エレゾ社による出前授業

地域の食肉料理人集団・エレゾ社の職員を講師に、食についての講話や自社で生産・加工している食材と学校農園で栽培・収穫した野菜と合わせた調理体験学習を行い、生命の尊さについて理解を深めるとともに、児童に望ましい勤労感や職業感を育むことができた。

ジュエリーアイスキャンドル作り

一般社団法人ココロコの職員を講師とした、地域の海岸で見られるジュエリーアイスのキャンドルの作成を通して、地元の自然環境や観光資源についての理解を深めるとともに、愛着や誇りを育むことができた。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

新聞づくり、プレゼン作成、観察カード、お礼の手紙等、各学年の発達段階に応じた、まとめの学習を行った。各取組における児童一人一人の学習状況をきめ細かに把握する必要があることから、今後は、ICTを効果的に活用した成果物を作成するなど、視覚的な学習成果を記録していくことを検討した。

(4) 改善後の取組

地域への興味・関心を更に醸成するために、各教科等の教科において、地域資源及び学習体験を積極的に取り入れるなど、教科等横断的な視点に立ち、地域に根ざした教育活動を展開することにより、多面的な視点から慣れ親しんだ地元について、考える機会とすることができた。

3 実践のポイント

- ・保護者、地域の学校教育への理解と協力体制を充実させ、地域資源、人材を活用した体験活動、授業改善を推進することにより、郷土を愛する心や地域に積極的に関わろうとする意識を高めたこと
- ・体験活動や授業内容の充実を図り、地域全体で子どもたちを育成する機運を高めたこと



【サケの稚魚・マツカワ放流体験学習】



【ジュエリーアイスキャンドル作り】